

令和 6 年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

和庄中学校区 校番14 学校名 呉市立本通小学校

a 学校教育目標	夢を持ち 自ら学ぶ ～「挑戦」そして「感謝」～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 確かな力と社会性を身に付け、地域を愛し、未来を創造しようとする児童生徒の育成 〈ビジョン〉(将来の学校像) 9年間を通して、夢を持ち自ら学ぶ児童・生徒を育成することにより、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校
----------	----------------------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	<p>現状(成果○と課題●)</p> <p>○小中一貫教育の推進により、中学校区の共通経営理念に基づいた研究・教育活動が行われている。</p> <p>○「和庄中学校区授業モデル」に基づいた教科等の本質に迫る「考える授業」づくりに向け、中学校区で授業改善を進めることができている。</p> <p>○和庄中学校区「自主的・主体的な行動ができる児童・生徒を育てるカリキュラムマップ」を作成し、課題発見・解決学習に取り組んでいる。(防災教育)</p> <p>●学力の個人差・学年差が大きい。(基礎基本、活用力の定着に課題がある。)</p> <p>●目的や場面に応じて自分の考えを表現することが難しい。</p> <p>●自主的・主体的に行動できる児童・生徒が少ない。(「自立」)(今年度の重点)</p> <p>①育成すべき資質・能力の重点を「思考力・主体性」とし、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進。(子供の問いを生かした「考える授業づくり」)・・・ICTの効果的活用・思考ツールの活用・個別最適な学び</p> <p>②防災教育の深化のために、地域の特色を生かしたカリキュラムマップの実践を行う。(家庭を巻き込んだ防災教育)</p> <p>③和庄中学校区スピリットに基づく児童・生徒の育成を目指し、9年間を見通した組織的な生徒指導を行う。</p> <p>④健康増進・体力の向上に向け、家庭連携による基本的な生活習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール)〈小</p>
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性
-------------	---------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2 (3) 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	学力の向上 (貴)	主体的・対話的で深い学びにつながる思考力・判断力の育成	・和庄中学校区授業モデルを実践し、考える授業づくりを行う。(発問の工夫、ICT・思考ツールの効果的活用)	・算数科単元末テスト60%以上の児童の割合 ・授業評価票2.5(和庄中学校区目標値) ・「全国学力・学習状況調査」において全国平均値との差(上半期) ・標準学力調査において平均正答率が60%以上の学年の割合(下半期)	70% 2.5 国語 2.0 算数 2.0 60%						
		自分の命は自分で守る児童の育成	・生活科や総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な防災教育を実施する。	・自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 ・災害時の避難場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100%						
** 豊かな心	和庄中学校区スピリットに基づく児童(生徒)の育成 (貴)	粘り強くやり抜く児童の育成	・生活目標を設定し、目標を達成できたか評価の場を設定する。	・教職員の見取り ・生活目標を達成できたと答える児童の割合(アンケート)	85%						
		礼儀正しく感謝の心をもつ児童の育成 (貴)	・学期に1回キャンペーン期間を実施する。 ・返事・あいさつ・くつそろえ ・「ありがとうの木」	・教職員の見取り ・キャンペーンの目標が達成できたと答える児童の割合(アンケート)	90%						
* 健やかな体	健康促進・体力の向上	体力・運動能力の向上	・「くれチャレンジマッチスタジアム」の取組や新体力テストの記録向上につながる運動を授業や朝の1分間体操に位置付ける。	・新体力テストの種目で、学校平均が県平均を上回る種目の割合	70%						
		基本的な生活習慣の確立	・学期に1回「元気っ子週間」を実施し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ・生活委員会の児童による呼びかけや表彰を行い、意欲を喚起する。(貴)	・夜9時以降はアウトメディアの児童の割合	80%						
働き方改革	教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保 (貴)	・児童の実態把握により、個に応じた支援を行う。 ・外部人材を積極的に活用することで、効果的な教育活動を実践するとともに、教職員の専門性を高める。	・日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の割合	80%						

[k: 評価]  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60